

IEEJ Industry Applications Society News Letter

電気学会産業応用部門ニュースレター 2006年9月号

ものを言う会員へ — 新部門長あいさつ —



部門長 齋藤 涼夫
株式会社 東芝

電力・社会システム技術開発センター 技監

このたび部門長を拝命しました齋藤涼夫です。2年間の任
期を皆様のご支援をいただきながら産業応用部門の発展の
ために尽くしたいと祈念していますので、よろしくお願
いいたします。

部門長候補者の所信表明として数ヶ月前に以下を述べさ
せていただきました。

『D 部門は常に新しい部門のあり方について検討を重
ねてきた。これまでに描かれたグランドデザインは、着
実に実現しつつある。新論文委員会を含む 3 委員会組織
に移行し、部門誌の純粋論文誌化が完了した。今後の課
題につき、次の視点から取り組みたい。

(1) 部門の独自性: 本部では部門会計が議論されてい
るが、部門においては、新しいあり方の実践とその規程
化、部門予算における諸施策・収支改善など、これま
でも増して部門による工夫が必要である。

(2) 国際性: 欧米や中国・韓国などとの間で新しい国
際会議を模索する話題が多い。電気学会国際活動委員
会や IEEE などとの連携がより重要である。

(3) 論文への取り組み: 学会の最大の使命は論文発表
との認識から、新論文委員会のもと電子投稿・論文査読シ
ステムを立ち上げ中である。この完成・運用を目指すと共に、
今後外国人査読者を組み込む準備を進める。また、論
文査読における透明性確保などの検討も重要である。

(4) 技術委員会: 論文特集号企画などにより技術委員
会が一層活発な活動を目指すと共に、新技術領域での技
術委員会創設を検討する。』

D 部門出身の諸先輩方から「新しい部門の検討はD部門
から」という精神を受け継ぎ、四元元部門長から始まり大
西前部門長に引き継がれた大きな改革の流れを振り返っ
てみて、改めてこの所信表明の完成を目指して努力してい
く所存です。

これまでに D 部門から発信してきた新しい制度・仕組
みの設計・実現は、その時々状況に危機感を持ったからと
いうことだけでなく、常に会員の皆様のメリットにつな
がるという発想がその原点にあります。しかし、改めて反省
してみると、皆様が電気学会あるいは D 部門の会員のメ
リットを実感しているかという問いに対して、明確にイエ
スと言える状況にはないと考えます。

会員増加、部門活性化などの直近の議論とは別に、会
員のメリットという視点から、さらに改革を進め、より効
果のある具体策を模索していかなければなりません。その
中から次の目標を定めていきたいと考えていますが、微力
でありますので是非お力添えをいただきますようよろしく
お願いいたします。

最近「ものを言う株主」という言葉が話題になってい
ます。その評価は色々ありますが、経営の環境を変えてい
く一つの原点になっていることは確かだと思います。電子
投稿・電子査読システムの例を見るまでもなく、D 部門
から発信されたことが電気学会全体に大きな影響を与え
ていることは論を待ちません。私達も声をあげ行動してい
くことで、「ものを言う会員」であり続けようではありませんか。